農業プロフェッショナル

肉豚 大麦給与や消費ニーズの追求で銘柄化

本日、13面広告で掲載

提供・独立行政法人 農畜産業振興機構

農業プロフェッショナル VOL.3（全4回）

肉豚

大麦給与で良食味

消費者見据えた飼養管理

肉豚 神奈川県平塚市 小泉春雄さん

大麦を豊富に含んだ専用の配合飼料が良好な肉質を形成し、その食味の良さから市場で高く評価される神奈川県の銘柄豚「やまゆりポーク」。生産者の一人、平塚市で㈲グリーンファームを営む小泉春雄さん（57）＝写真＝は、常に消費現場を意識した飼養管理で銘柄浸透に貢献するトップランナーだ。

大麦で脂厚く、良質に

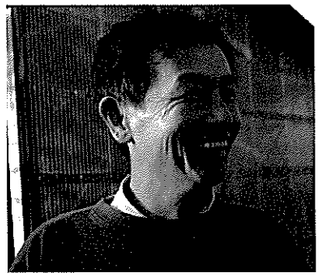
「やまゆりポーク」は14戸で組織する生産者協議会が生産する。豚の肥育期間のうち、出荷前の3カ月間、大麦を給与。背脂肪が厚くなり、肉のきめや締まりが良くなるという。

銘柄名は光沢が美しい脂の白さから県花のヤマユリにちなんで名付けた。脂のうまみが特長の豚肉。一部を横浜食肉市場に上場したところ、知名度がアップし、販路も急拡大。銘柄が誕生した20年前と比べて出荷頭数は1万頭近く増え、取引価格も安定した。

消費ニーズを追求

小泉さんは息子と2人の労働力で母豚約130頭を飼い、年間約2500頭出荷する。消費者や実需者が「求めるものを作る」ことを追求。おいしさと同時に、肉質の均一化や年間の安定供給を重視する。三元交雑（LWD）を基本とした人工受精による品種間交配で受胎率が向上し、母豚の体長がそろって肉質が均一化できた。

家族で頻繁に畜舎を巡回する。丁寧な飼養管理で豚の体調管理も万全となり、疾病などの事故も減った。



安定対策事業が「経営の支え」

銘柄豚の生産などによる差別化・高付加価値化を図る一方、販売価格の季節的変動に伴う経営のリスクヘッジは不可欠。独立行政法人農畜産業振興機構が実施する「養豚経営安定対策事業」に参加する。小泉さんは、以前からこれに参加していたが、平成22年度からは国の補助金の拠出割合が倍になり、今年度、第1四半期にも補てん金が支払われ「大変助かった」という。

毎月の生産者協議会の勉強会では、各生産者の出荷頭数や格付けなどが書かれた成績表が配布される。ざっくばらんにアドバイスしあえる貴重な場で、張り合いも生まれ、品質の一層の高位平準化につながっている。

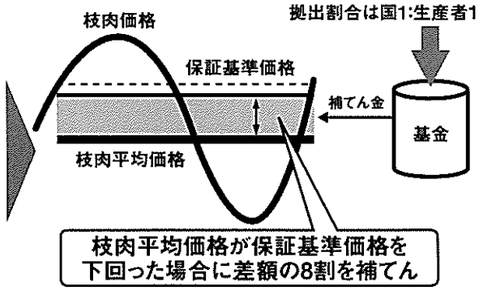
学校給食など県内での消費拡大にも注力する。「銘柄といっても高級品ではなく、おいしいとたくさんの人に食べてもらえる豚を作りたい」と小泉さん。めざす銘柄豚は県花“ヤマユリ”のように地元で愛されることにある。

〈PR〉 AGRI PROFESSIONAL

養豚経営安定対策事業について

独立行政法人農畜産業振興機構が実施する「養豚経営安定対策事業」は、四半期ごとの枝肉1㌔当たりの平均価格が生産コストに相当する保証基準価格を下回った場合、その差額の8割を補てんする仕組みです。これにより年間を通じた所得減少分を補てんすることになります。

平成22年度から生産者が同機構に直接申し込み、補てん金が同機構から生産者に対し直接支払われる直接交付方式をモデル的に実施しています。



補てん金は（生産者拠出）1:（国の補助）1の割合で積み立てた基金から支払われます。平成22年度の生産者積立金は1頭当たり580円、保証基準価格は1㌔当たり460円で、いずれも全国一律です。

肉豚経営の安定のために、養豚経営安定対策事業をご活用ください。

お問い合わせ先 食肉生産流通部食肉需給課 TEL03-3583-1151

詳しくは、当機構のホームページをご覧になるか、お気軽にお問い合わせください。

ホームページ http://www.alic.go.jp

alic 独立行政法人 農畜産業振興機構